



2021年に向けて

京都保健会看護部 松浦とぎえ

2020年はコロナで始まりコロナで終わりました。特に、学生の学ぶ環境が激変しました。近畿高等看護専門学校は民医連立の看護学校として2023年には50周年を迎える歴史のある学校です。1学年35人と少ないながら、色々な行事は全校生徒が集い先輩の姿を目の当たりにでき「継承と絆」を体感できていました。しかし、2020年3月の卒業式からは低学年の学生の参加はできなくなりました。それ以降の式典は全員マスク、記念写真もマスク着用となり、今年一年が集約された形となりました。

しかし、そんな中でも、学生はリモートで学び、模擬人形から学び、短い時間の中で患者さんのケアをする先輩から学び、進化を続けていきます。そして、人間にとって何が大事かということを体感し、実感していることと思います。

京都保健会看護部では、夏には食料品支援を職員に募り、綾部福知山など北部から、吉祥院病院からそして中央病院からたくさんの方の思いを形にして学生に配布し喜ばれました。また、看護師たちは、自分たちも感染の脅威とたたかいながらも学生たちの置かれている状況に心配し共感し指導してくれています。そして、「学生たちを助けたい」とカンパにも協力

してくれています。そんな中、近畿高等看護専門学校への寄付の活動が本格化しました。民医連職員・近看卒業生、友の会の方々にも広く呼び掛けています。ぜひご協力ください。

こんな中、2019年11月に京都民医連中央病院が移転し、当保健会事務局も移ったことは幸いしました。広い空間があり、交差することなく患者さんの流れができます。また、病院と切り離して研修やオンライン会議、そして学生の休憩や学びスペースとしても保健会事務局の研修室の活用ができています。

2021年、人間らしく、その人らしく生きるを支える看護を実践するために、川島みどり先生の言葉を借りて「本当に豊かで自由な暮らしと、それを支える人間らしい労働条件の実現に向かうために」たたかっていきたいと思っています。



ナーシングセミナー

2020年共同組織月間

たくさんの宝物が生まれました

京都保健会 組織社保部

コロナ禍での共同組織月間は、制約のある中でした。

1. 仲間・きずなづくりでは、インフルエンザワクチンの公費申請のお手伝いを400人規模で行ったり、会員拡大をしている職員さんにインタビューをして一人の頑張りをみんなのものにする取り組みに変えたりと経験が生まれました。
2. 見てよし、読んでよし、語ってよしの「いつでも元氣誌拡大」では、新たに「読書会」が立ち上がり、また、OBとなる「1冊」となり「元氣誌」の活用が拡大しました。
3. コロナ禍でも頑張った新たなつながりは、WEBによる医療懇談会、孤立・孤独死を防ぐための「見守りリーフレット」



感染対策を行い健康体操

を作成し地域の商店にも協力依頼して設置してもらおうなど、地域のHPHが進んでいます。

これからも、3つの守る運動「地域の健康を守る」「地域の医療・介護を守る」「事業所の経営を守る」のために、21年も「つながり」を広げる活動を地道にしていきたいものです。よろしくお願ひします。